

IV 普及・展示事業

1. 展示

一般多数の方々を対象とした東洋学の普及を図る手段として、「東洋文庫ミュージアム」を運営した。

A. 基本方針

このミュージアムでは、特に東洋学に興味を持たない一般の方々を主な対象とし、幅広い世代の利用者に、ミュージアム見学を通して東洋学に興味を持つ機会を提供するものである。本ミュージアムは、東洋文庫の蔵書・史料を中心に種々の展示企画を組み立て、常に新たな発見と変化のある展示を心がけている。

B. 展示手法

広く一般の方々にミュージアム訪問の興味を喚起するため、①見学に適切な規模の展示内容とし、②展示の解説は日頃東洋学とは疎遠な利用者にも十分理解できる簡易なものとし、③デジタル技術等を取り入れた視聴覚的かつ斬新な展示で利用者の興味を引くことに努めた。

C. 施設

温度・湿度管理、窒素ガス消火設備運用により、展示図書・資料の保全に万全を期した。また、併設のギフト・ショップ、ミュージアム・カフェでは、東洋文庫の所蔵資料も紹介し、一般利用者に対してミュージアムの魅力を高め、東洋学普及の一翼を担う、ミュージアムの一体施設として運営した。

D. 展示スケジュール

名品展と企画展の組み合わせからなる展示スケジュールを立て、以下の展示を開催した。

- (1) 名品展は国宝をはじめとする貴重書中心に構成されており、保存と集客の観点から、定期的に展示箇所を入れ替えを行った。
- (2) 企画展は一年に3回の頻度で行っている。本年度は以下の企画展を実施した。

〈企画展〉

- ①「解体新書展—ニッポンの「医」の歩み 1500 年」(2016 年 1 月 9 日～4 月 10 日)
- ②「もっと知ろうよ！儒教展」(2016 年 4 月 20 日～8 月 7 日)
- ③「本のなかの江戸美術展」(2016 年 8 月 17 日～12 月 25 日)
- ④「ロマンノフ王朝展—日本人の見たロシア、ロシア人の見た日本」(2017 年 1 月 7 日～4 月 9 日)

〈名品展〉

- 「記録された記憶～東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史」
- (3) 各企画展において展示図録を作成した。全ページカラーで画像を多用し、解説文も平易でわかりやすいものに仕上げた。A5 版でハンディなブックレットタイプである。
 - (4) 上記企画展会期中に公開講座（企画展示記念講座）を開催した。講演者と演題は 88～94 頁の通りである。
 - (5) 六義園特別展示「六義園をめぐる歴史」を開催した。
会期：① 2016 年 3 月 16 日～4 月 10 日
② 2016 年 4 月 20 日～5 月 30 日
③ 2016 年 7 月 6 日～8 月 7 日
④ 2016 年 11 月 23 日～12 月 12 日
会場：東洋文庫ミュージアム 1 階オリエントホール

E. ガイドツアー

ミュージアムへの来客サービス・集客戦略の一環として、館内ガイドツアーを実施し、好評を得た（開館期間の毎日 15 時に開催した）。

F. ミュージアム諮問委員会

ミュージアムの運営について外部有識者の意見を得るため、新たにミュージアム諮問委員会を設置し、2016 年 5 月 19 日（木）、2017 年 2 月 2 日（木）

に委員会を開催した。

G. 学習支援事業

(1) 学校連携

- ① 東京藝術大学との協力協定により、記念コンサートを複数回ミュージアム内にて開催し、多数の来場者を得た。また、同学彫刻科の卒業作品から一作品を選出して「東洋文庫賞」を授与し、東洋文庫敷地内のオープンスペースにて1年間作品を展示した。
- ② 成蹊大学図書館との協力協定により、東洋文庫の貴重書を大学図書館入口にて常設展示した。
- ③ 東京都小石川中等教育学校（スクールパートナーシップ提携校）の中学3年生16名に対し、学芸員が文化財学習として「高校生のための博物館学入門」を行った（2016年6月9日）。
- ④ 青山学院大学文学部（キャンパスパートナーシップ提携校）の学生2名に対し、学芸員が博物館実習を行った（2016年6月30日～7月8日）。
- ⑤ 文京区立駕籠町小学校5年生48名に対し、学芸員が総合学習として講座「調べ学習〈どうなってるの!? 江戸のお食事情〉」を行った（2016年11月2日）。
- ⑥ 東京都小石川中等教育学校（スクールパートナーシップ提携校）の中学2年生2名に対し、学芸員他が職場体験を実施した（2016年11月15日～17日）。
- ⑦ 筑波大学附属視覚特別支援学校中学部男女各1名に対し、東洋文庫、ミュージアム運営に関する職場体験を実施した（2016年11月17日）。
- ⑧ インターン制度により、第三期（2016年2～4月）2名、第四期（5～8月）2名、第五期（9月～2017年1月）1名、第六期（2～4月）2名に対し、学芸員が就業体験を実施した。

(2) ミュージアムワークショップ

より幅広い年齢層にミュージアムをお楽しみいただくために、学習支援事業としてワークショップを活発に開催した。未就学児童を含めた若年層に数多くご参加いただくことができた。

- ① はじめての製本体験～和書編～（普及展示部 篠木由喜）
4月3日（日）

- ②三国志と『論語』（講師：早稲田大学教授 渡邊義浩）
5月1日（日）・8日（日）の合計2回
- ③フジテレビ KIDS 親子論語ワークショップ vol.3 孔子と子路「義」「知」について（講師：東京大学教授 小島毅）
6月19日（日）
- ④フジテレビ KIDS 子どものための礼儀作法ワークショップ vol.1 ご挨拶と物の受け渡し（講師：小笠原流礼法総師範 前田菱紀）
7月17日（日）
- ⑤製本体験シリーズ第3弾 巻物をつくろう！（普及展示部 篠木由喜）
8月20日（土）
- (3) ジュニア研究員プログラム
小学3年生から6年生までを対象とした連続講座として「ひろくて深〜い、地図と歴史」を開催した。斯波義信文庫長、普及展示部学芸員のほか、株式会社 HUMI コンサルティング代表取締役の中村佳史氏が講師を担当し、小学生が東洋学に関する研究活動を体験した。

H. 文京区向けの普及活動

- (1) 文京区の文京アカデミー区民プロデュース講座「博物館学 超!入門〜ミュージアムの内側をのぞいてみよう〜」を開催した（2016年6月2日）。
- (2) 文京区の文京アカデミーの生涯学習「いきいきアカデミア講座」を開催した（2016年9月21日）。
- (3) 文京区「文の京ミュージアムネットワーク」の会員として、区役所1階で開催された「文京ミューズフェスタ」にインターン生と共に参加した。各施設とも、展示・体験コーナーを開設し、ポスター・パネル等の掲示を行った（2016年12月17日）。
- (4) 東洋文庫ミュージアムにて文の京コミュニティコンサート「東洋文庫ミュージアム フルート&ハープ デュオコンサート」を開催した（2017年2月11日）。

Ⅰ. 図書展示コンサルティング

ミュージアムにおける図書資料展示の経験を役立てるため、学芸員が下記の図書館・団体にて講演と実演を行った。

- (1) 東京都図書館研究交流会（2016年7月5日、於：東京都立中央図書館）
- (2) 私立大学図書館協会和漢古典籍研究分科会（2016年8月24日、於：東洋文庫）
- (3) 神奈川県図書館協会職員研修会（2016年9月13日、於：東洋文庫）
- (4) 神奈川県資料室研究会（2016年12月16日、於：神奈川県立川崎図書館）
- (5) 信州大学附属図書館セミナー（2016年2月28日、於：信州大学附属図書館）

Ⅱ. 入場者数

2016年4月1日～2017年3月31日における、ミュージアム総入場者数は以下のとおりである。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入場者数	2,838人	1,969人	1,637人	1,904人	1,667人	2,005人
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2,397人	3,638人	4,645人	2,318人	3,329人	4,735人	33,082人

2. 広報普及

東洋文庫所蔵の図書・史料の掲載・報道・放映等の依頼に適宜対応すると共に、ホームページを随時更新し、利便性を確保した。若年層への東洋学の普及を目指し、学校連携活動も行った。

A. 要人の訪問

駐日中国大使夫妻、駐日ロシア公使夫妻、他。

B. 関連書籍の刊行

『東洋文庫善本叢書』第2期 欧文貴重書「ラフカディオ ハーン B. H. チェンバレン往復書簡」「東方見聞録（世界の記述）」「重要文化財 ジョン・セーリス『日本渡航記』」全3巻（勉誠出版刊）

C. 報道実績

ミュージアムに関しての報道実績の主なものを以下に挙げる（50音順）。

新聞：『石巻かほく新聞』、『産経新聞』、『東京新聞』、『日本経済新聞』、『読売新聞』など

雑誌：『マンスリーみつびし』など

テレビ：NHK『探検バクモン』（2017年1月25日（水）放送）にて、東洋文庫が特集された。

D. 『東洋見聞録』

東洋文庫の活動をご支援いただいている「名誉文庫員」、「友の会会員」、職員OBほか関係者をつなぐニュースレターとして発行・頒布した。

E. メールニュース

東洋文庫ミュージアムのメールニュースをメール会員向けに毎月発信した。

F. 近隣の中学・高校とのミュージアム・フリーパス連携

小石川中等教育学校とのミュージアム・フリーパス連携を引き続き締結した。

G. 澤田家からの美術品寄贈

岩崎彌太郎の孫娘澤田美喜氏の親戚にあたる澤田朋子氏より、絵画（洋画・掛け軸）等の寄贈を受けた。

H. モリソン文庫調査委員会

2017年にモリソン文庫渡来100周年を迎えるにあたり、2015年度に立ち上げたモリソン文庫調査委員会において、記念出版と特別展示の準備を進めた。

I. 叙勲

元評議員の大滝則忠氏（前国立国会図書館館長）が瑞宝重光章を叙勲された。

J. 東洋文庫アカデミア

東洋文庫研究員をはじめとする各分野の専門家が講師となり、所蔵資料やこれまでの研究成果などの専門知識をわかりやすく教授する市民向け講座を下記のとおり実施した。

講座名	講師（所属）	期間	人数
初心者のための金継ぎ講座	田淵可葉（東京芸術大学大学院芸術学研究科）	2016年5月7日～ 7月30日	9
はじめてのフランス語 I	牧野元紀（東洋文庫主幹研究員）	2016年5月9日～ 8月15日	4
イスラーム美術の細密画	青木節子（トルコ細密画と文化史の会）	2016年5月9日～ 7月25日	4
トルコの手工芸 メキッキオヤ	小島優子（オヤの会講師）	2016年5月11日～ 8月3日	11
ペルシア語の世界：中級編	渡部良子（東京大学非常勤講師）	2016年5月13日～ 7月29日	6
初歩の文人画講座（彩色画篇）	伊藤忠綱（二松学舎大学非常勤講師）	2016年5月14日～ 7月23日	8
イランの織物 ペルシア絨緞の世界	深見和子（イラン古染織研究家）	2016年5月18日	23
イランの芸術 ペルシア書道に親しむ	角田ひさ子（拓殖大学言語文化研究所講師）	2016年5月21日～ 7月30日	6
朱子学入門	垣内景子（明治大学教授）	2016年6月4日～ 7月2日	8

講座名	講師（所属）	期間	人数
東西交流の考古学	飯島武次（東洋文庫研究員・駒澤大学名誉教授）	2016年6月4日～ 7月16日	4
易経講座	大場一央（早稲田大学非常勤講師）	2016年6月11日～ 6月25日	19
絵解きで学ぶ 中国の城郭都市	角山典幸（中央大学兼任講師）	2016年7月30日～ 8月27日	7
真田幸村から学ぶリーダーの資質と人間形成	佐藤敏彦（（株）パスエイド代表取締役、淑徳大学非常勤講師）	2016年9月3日	5
糸でかがる一洋製本の世界	平まどか・中村美奈子（レ・フラグマン・ドゥ・エム）	2016年9月10日	12
初歩の文人画講座（彩色画篇）Ⅱ	伊藤忠綱	2016年9月10日～ 12月3日	7
はじめてのフランス語Ⅱ	牧野元紀	2016年9月12日～ 12月19日	3
東アジアにおける日仏の出会い—仏領インドシナと日本	フランク ミシュラン（明治大学特任准教授）	2016年9月17日～ 10月22日	8
イランの芸術 ペルシア書道に親しむ「路傍の書」	角田ひさ子	2016年9月17日～ 12月3日	5
シナ（チャイナ）とは何か	宮脇淳子（東洋文庫研究員）	2016年9月17日～ 12月17日	14
第3回現代中国理解セミナー 「現代中国政治を理解する」	高橋伸夫（慶應義塾大学教授）、加茂具樹（慶應義塾大学教授）、角崎信也（日本国際問題研究所研究員）、中岡まり（常磐大学准教授）、安田淳（慶應義塾大学教授）、江藤名保子（中国外交研究者）	2016年10月6日～ 11月17日	12

講座名	講師（所属）	期間	人数
漢訳仏典を読む	船山徹（京都大学人文科学研究所教授）	2016年10月15日 ～10月16日	17
『祖堂集』を読む	衣川賢次（花園大学教授）	2016年11月26日 ～11月27日	14
江戸の心を映す明治・大正のきもの	伊豆原月絵（日本大学教授）	2016年11月26日 ～12月3日	8
「ロマノフ王朝展」を味わうために一知られざる日本とロシアの交流史	牧野元紀	2017年2月12日～ 3月19日	26
イスラーム美術の細密画	青木節子	2017年1月9日～ 4月24日	2
トルコの手工芸 メッキキオヤ	小島優子	2017年1月11日～ 4月5日	7
ゼロから始めるロシア語入門	畔柳千明（東京大学大学院総合文化研究科）	2017年1月20日～ 3月31日	7
ペルシア語の世界：入門編	渡部良子	2017年1月21日～ 3月18日	8
イランの芸術 ペルシア書道に親しむ 「セバフリーの詩」	角田ひさ子	2017年1月21日～ 4月1日	6
『蒙古源流』を読む	宮脇淳子	2017年1月21日～ 4月1日	8
ペルシア語の世界：初級編	渡部良子	2017年1月25日～ 3月22日	6
はじめてのフランス語Ⅲ	牧野元紀	2017年1月30日～ 3月27日	3
初歩の水墨画講座—十二支を描く・子～巳年	伊藤忠綱	2017年2月11日～ 4月22日	7